

シンポジウム特集

「乾燥地における土壌塩類化の問題と対策 —世界の現場からの報告—」

土壌物理学学会会長 井上 光弘¹

近年、人口増加に伴って、食糧危機、水資源の枯渇、エネルギー不足、環境悪化など多くの深刻な問題が発生している。その中で、土壌劣化、とりわけ土壌の塩類化の問題は、われわれ、土壌物理学学会にとって重要な研究課題である。

土壌の塩類化問題は100ヶ国以上で発生し、地球上の全耕地面積の23%に相当する3億4000万haが塩性化、37%に相当する5億6000万haの面積でソーダ質化が進行しているといわれている。そのため、安定した持続的な食料確保の面からも実現可能な対策が急務となっている。土壌の塩類化は今や世界的な問題であるが、水資源の制約を受ける乾燥地/半乾燥地では、より深刻な問題となっている。

良質な灌漑水といえども塩は含有されており、長い時間スケールでは塩類集積は必ず発生する。灌漑が必要不可欠な乾燥地農業においては、土壌の塩類化は必然的現

象であろう。しかし、適切に土壌を管理することで、その発生を遅らせ、あるいは、未然に防ぐことも不可能ではない。我々人類は、農耕を始めて以来、その方法を探し求めてきたが、現代においても未だ確立できていない。この塩類化問題は古くて新しい課題であり、塩類を除去する実用的な対策が、研究上も急務である。

今回のシンポジウムでは、「乾燥地における土壌塩類化の問題と対策—世界の現場からの報告—」と題して、現場の問題点と対策について、3名の演者に話題提供していただく。活発な議論が、会員各自の認識を深め、有効な解決法を導き出す契機となれば幸いである。多くの会員の皆様に参加していただき、有意義なシンポジウムにしたい。

¹Arid Land Research Center, Tottori University, 1390 Hamasaka, Tottori, Tottori 680-0001, Japan

ご講演いただく方々と演題は次の通りである。

1. 山本定博 鳥取大学農学部

「メキシコ・カリフォルニア半島コモンドゥ地域における灌漑農地の土壌塩類化の実態と要因解析」

2. 北村義信 鳥取大学農学部

「カザフスタンにおける灌漑農地の塩類化の現状と対策」

3. 赤江剛夫 岡山大学大学院環境学研究科

「乾燥地灌漑農地における塩分の挙動と持続的用水配分計画 内蒙古河套灌区を対象に - 」